

第十三日目

師 範：藤原氏による摂関政治では、天皇の権力は藤原氏ににぎられていました。

天皇の母の父親という立場でした。

制約されていた天皇は、退位してから上皇として、政治に関係するようになりました。

藤原氏だけが繁栄する社会に不満をもつ人々も多くなりました。

上皇は各地の有力者から荘園の寄進を受け、収入が豊かになりました。

この院政という政治が始まったのは、白河上皇のときからです。

1086年のことです。摂関政治から院政へと変わる年です。

1086年 院政が始まる。

この年を覚えましょう。

ペン太：これはいろいろ考えました。一番気に入ったのはこれです。



「院政のはじめをやろう白河上皇」

1は「はじめ」と読んで、「を」は0、「や」は8、「ろ」は6、=1086。
いかがでしょうか。

師 範：これはなかなかむずかしかったでしょう。

「はじめを」と使ったところは、意外だったね。意味と読みをつなげようとした努力がうかがえます。ポイントはすべて読み込まれていますね。

うまくできましたね。

コン太：うまくできませんが

「摂関の音(おと)やむ白河院政」

「おとやむ」の「と」を10として、
「や」は8、「む」は6ということです。



師 範：ポイントの言葉は入っているが、「音」がすこし苦しいところですね。

10をどう読むかがむずかしいし、86を「やむ」という言葉で読んでみたいから、引き出す言葉に困りますね。苦労したことがわかります。